

十二月八日。後村上天皇、鹿島郡永光寺開山瑩山紹瑾に佛慈禪師の號を贈り給ふ。

【永光寺文書】 鹿島郡

四四二

上卿權中納言

正平八年十二月八日 宣旨

紹瑾上人

宜諡號佛慈禪師

藏人左少辨兼左衛門權佐平時經奉

(この口宣案は、現に鹿島郡永光寺に藏せらる。正平九年三月二日の條参照。瑩山紹瑾は、後安永元年に弘徳圓明國師、明治四十二年に常濟大師の號を追贈せられたり。)

正平九年

甲午

紀元二〇一四

文和三年

京都

二月廿四日。石川郡白山宮莊嚴講勸進、明日を以て曼陀羅堂に講衆を招集す。

【白山宮莊嚴講中記録紙背文書】

四四三

明日午刻於曼陀羅堂

可有御集來矣

見聞

立政權律師奉

貞澄權少僧都

善耀權律師奉

禪祐阿闍梨

承覺權律師奉

一運阿闍梨

連海大德奉

詮乘阿闍梨

禪俊阿闍梨

豪運阿闍梨

右依恒例所唱如件

文和三年二月廿四日

勸進 源 運

三月二日。假揭

【總持寺文書】 鳳至郡

四四四

開山瑩山大和尚禪師號之副狀宣下狀ハ在永光寺

依窮老無合期、令進僧之候。洞谷開山大和尚奉贈佛慈

禪師

勅

奉令進上之候。佛法并戒脉之由承御尋

勅。

依之深源長流只須崇先代。

勅定以如此。雖難存 大和尚指歸、報恩之次第互古今、

佛祖依

國王歸敬、佛法祖道盡未來際勝躅以如斯耳。千載影祖心

只在之乎。恐惶敬白。

正平九年甲午三月二日

覺 明 在判

進上 總持寺堂上老和尚

御衣鉢侍者

(本文書は瑩山紹瑾に佛慈禪師の諡號を贈り給ひし時、覺明が總持寺に與へたる添狀なりといふ。然りとはいへども洞谷寺 永光 開山和尚に贈諡せられたりといひて添狀の總持寺に宛てられたるは疑ふべく、文意亦解し難きものあり。正平八年十二月八日の條參照。)

五月廿四日。石川郡白山宮莊嚴講勸進、明日を

以て阿佛坊に講衆を招集す。

【白山宮莊嚴講中記録紙背文書】

四四五

明日午刻於阿佛坊

可有御集來矣

見聞

立政權律師奉

貞澄權少僧都 奉

善耀權律師奉

禪祐阿闍梨 奉

承覺權律師奉

一運阿闍梨 奉

連海大德奉

詮乘阿闍梨 奉

禪俊阿闍梨

豪運大德 奉

右依恒例所唱如件

文和三年五月廿四日

勸進 尊 仁

七月十八日。石川郡白山宮並びに金劔宮の紺搔と、野市の紺搔と、水引神人所役に就いて協定す。

【三宮記】

四四六

定置 石川郡水引神人野役事